「リコー千葉ふれあいの森」間伐と餅つき

2010年12月18日、千葉市若葉区の「リコー千葉ふれあいの森」で、リコージャパン、リコーテクノシステムズほかグループ社員とその家族など合計32名が参加して森林保全活動を実施しました。千葉県の里山条例に基づき、竹が繁茂する杉林の手入れに困った地主と協定を結んだのが2004年。以来、リコーの環境ボランティアグループ「千葉ふれあいの森保全会」は、①下草整備で森の活用度を上げる、②スペースを確保してレクリエーション設備を作る、③設備の材料には間伐材を利用、という3つの柱を定めて活動を続けてきました。その65回目の活動となった当日は、この冬一番の寒波が日本列島をすっぽりと覆いましたが、降り注ぐ日光でとても暖かく、間伐作業と恒例の餅つきを快適に行うことができました。つき上がった餅は、子どもたちも手伝って、のし餅、きなこ餅、からみ餅にして豚汁と一緒にいただき、満足感いっぱいのうちに2010年最後の活動を終了しました。

活動当日に集まった社員とその家族

「やどりき森睦会」丹沢春嶽の森保全活動

2010年8月28日、丹沢春嶽にて、リコーの環境ボランティアグループ「やどりき森睦会」による森保全活動が行われました。やどりき森睦会は、2001年神奈川県の森林づくりパートナー制度をきっかけに「やどりき水源林」で活動を開始。2006年からは、丹沢・大山自然公園内でケヤキを中心とした混交林の管理・モニタリング活動や神奈川県各地で竹林整備などの活動を続けています。その53回目の活動となった当日は、暦のうえでは立秋ながら、屋外活動が危険と言われるほどの猛暑が続いていたため、当初計画していた野焼きなどの内容を変更し、丹沢の春嶽沢の水辺にて、護岸工事を行いました。春嶽沢は川幅1.5m、水深は30cm程度（春嶽の森入り口付近）ですが、豪雨の際に鉄砲水が起きるため、土砂や木が流される被害が発生します。2009年に掛けた橋はまだ丈夫でしたが、川筋がいつの間にか二つに分かれていたので、一方をせき止め、岸を岩で固める護岸作業を行いました。完成した堤防は歩きやすく、頑丈で、水辺にも入りやすく、水遊びが楽しめそうな地形に変わりました。

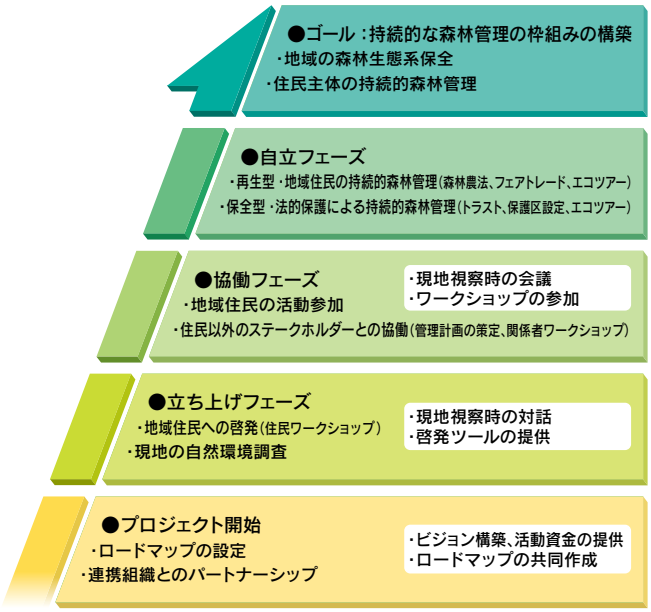
作業の後は水辺に入りやすくなって、水遊びが楽しめそうな地形に変わりました

森林生態系保全プロジェクト

《リコー／グローバル》

地球上には、森林、湖沼、珊瑚礁、海洋など、さまざまな生き物の生息地があり、それぞれに特有の生態系が保たれています。生態系が崩壊すれば、人類の生命維持に必要な自然環境も崩壊します。リコーは、生態系の中でも、特に生物多様性が豊かな「森林生態系」に注目して、1999年度から環境NGOや地域とのパートナーシップのもとに「森林生態系保全プロジェクト」を展開しています。これらの活動は単なる植林とは異なり、土地固有の生物種の生息域や住民生活を守ることを主眼とするもので、持続的な森林管理の枠組みの構築を目的に行われています。活動の資金は、継続して社会貢献を行うためにリコーが設けた「社会貢献積立金」から拠出されています。「社会貢献積立金」は、株主総会での承認のもと積み立てられ、「地球環境保全」「青少年育成」など、グローバルな課題に取り組むために活用されています。

プロジェクトの目標達成のステップ　（　）はリコーの関わり



※ プロジェクトの進捗状況はこちらをご覧ください。 http://www.ricoh.co.jp/ecology/biodiversity/forest_ecosystem/01_01.html

日本の森を蘇らせるプロジェクトへの支援

《リコー／日本》

リコーは、2001年11月から、アファンの森プロジェクトを支援しています。このプロジェクトは、C.W.ニコル・アファンの森財団が2002年の財団設立当初から実施しているもので、長野県黒姫の約10万㎡の森で、人と多様な生き物が共生できる森づくりをテーマに森林の生態学的調査や研究・保全を行っています。一度荒廃した森の生態系は容易には回復せず、自然の力だけで再生するには数百年の歳月を要するので、人が適切に関わって再生の手助けをすることが重要です。プロジェクトでは100年後の森の姿をイメージして、優先的に成長を促す樹木の選定や天然更新しやすい環境の整備を行ってきた結果、ヤマネなどの絶滅危惧種をはじめ、森の生き物たちの種類が着実に増えていることが確認されています。

森林整備を開始した当時の様子

活動によって明るい森へと再生した様子

ブラジル・ボアノバ緑の回廊プロジェクト

《リコー／グローバル》

リコーは、2007年8月から大西洋岸低地熱帯林ボアノバで行われている森林復元プロジェクトを支援しています。このプロジェクトは、大西洋岸地区の緑の回廊プロジェクトの一環としてブラジル・バイア州のボアノバ地域の熱帯林復元を目指すもので、日本のNPO法人バードライフアジアとブラジルのSave Brazilが中心となって活動をしています。ボアノバは220種の鳥や動物が生息し、貴重な生物多様性に恵まれた地域ですが、違法伐採やプランテーション、過放牧などの影響により、生き物たちの生息の場である森林が減少していました。プロジェクトでは森林資源管理プランを策定して、住民組織や80名の土地所有者などと協力し、森林の復元を進めながら、住民が森林と共生できる循環型社会の構築を目指しています。また、ブラジル政府も本格的な支援に乗り出し、2009年から3年間、15万ドルの活動助成金の支給を決定。さらに政府は、2010年6月、ボアノバに国立公園を創設し、国を巻き込んだ森林復元活動はこれまで以上に加速しています。

森の中で行われている小学校の環境教育